

## 2018年5月期 第2四半期 決算概要

- 人材需要と多様なサービスニーズへの対応が奏功し、すべてのセグメントで増収となり売上高は 150,619 百万円（前年同期比 +10.0%）
- 収益力向上も貢献し、売上総利益も 31,931 百万円（同 +18.3%）と増益
- 販管費において、効率化が進みコスト低減が実現したことや、退職給付費用の負担減等により、営業利益 2,618 百万円（同 +229.4%）経常利益 2,634 百万円（同 +246.8%）と大幅拡大親会社株主に帰属する四半期純利益も 470 百万円と黒字化し大幅増益

### 1. 第2四半期連結業績（2017年6月1日～11月30日） （百万円）

	2017年5月期2Q	2018年5月期2Q	増減	増減率
売上高	136,867	150,619	+13,752	+10.0%
売上総利益 (売上比)	27,000 19.7%	31,931 21.2%	+4,931 +1.5pt	+18.3%
販売費及び一般管理費 (売上比)	26,205 19.1%	29,313 19.5%	+3,107 +0.4pt	+11.9%
営業利益 (売上比)	794 0.6%	2,618 1.7%	+1,823 +1.1pt	+229.4%
経常利益 (売上比)	759 0.6%	2,634 1.7%	+1,875 +1.1pt	+246.8%
親会社株主に帰属する四半期純損益 (売上比)	△816 -	470 0.3%	+1,286 -	-

### 2. セグメント別連結業績（セグメント間取引消去前） （百万円）

	売上高	前年同期比		営業損益	前年同期比	
エキスパートサービス（人材派遣）	78,491	+7,022	+9.8%	2,330	+1,893	+434.0%
インソーシング（委託・請負）	39,197	+3,114	+8.6%			
HRコンサルティング、教育・研修、その他	3,236	+318	+10.9%			
グローバルソーシング（海外人材サービス）	3,506	+439	+14.3%			
キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）	8,151	+973	+13.6%	1,489	+784	+111.3%
アウトソーシング	16,249	+1,704	+11.7%	2,514	+32	+1.3%
ライフソリューション	2,511	+256	+11.4%	110	+36	+48.4%
パブリックソリューション	1,198	+346	+40.7%	△732	△496	-
消去又は全社	△1,923	△423	-	△3,094	△427	-
<b>合計</b>	<b>150,619</b>	<b>+13,752</b>	<b>+10.0%</b>	<b>2,618</b>	<b>+1,823</b>	<b>+229.4%</b>

#### 主要セグメントの増減理由

エキスパートサービス	経理、外国語、貿易、IT系など専門事務を中心に多くの職種で伸長。昨年8月にNTTグループの人材サービス会社4社から譲受した人材派遣事業と子会社化した2社も業績に貢献。
インソーシング	コンタクトセンター等を運営するビーウィズ(株)や、パソナ・パナソニック ビジネスサービス(株)も業績に寄与。グループ総合拠点「JOB HUB SQUARE」を利用した地方創生案件も好調。
グローバルソーシング	海外はすべての事業で増収。北米、ASEANが成長し、インドネシアのDGS <sup>*1</sup> の派遣事業や、ベトナム、インドも順調に推移。為替もプラス方向に働いた。
キャリアソリューション	人材紹介事業は業種、職種を問わず伸長。ITエンジニア向けの転職サイト「GeekOut」を開設。再就職支援は、全国拠点を利用して総合営業体制へと移行。
アウトソーシング	福利厚生事業は、会員数が着実に増加。報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業も堅調。ヘルスケア事業も新規取引が大幅に増加し好調。

<sup>\*1</sup> PT. Dutagriya Sarana（デュータグリヤ サラナ）

### 3. 財政の状況

(百万円)

	2018年5月期 2Q末	前期末比		増減要因
		増減	増減率	
流動資産	66,286	1,668	+2.6%	現金及び預金の減少 3,338 百万円、 受取手形及び売掛金の増加 4,898 百万円、 有形固定資産の増加 3,935 百万円等
固定資産	34,594	4,627	+15.4%	
資産合計	100,881	6,296	+6.7%	
流動負債	51,397	1,585	+3.2%	買掛金の減少 2,669 百万円、 未払費用の増加 2,674 百万円、長期借入金の増加 3,327 百万円、固定負債のその他に含まれるリース債務 の増加 1,274 百万円等
固定負債	21,597	4,887	+29.2%	
負債合計	72,995	6,472	+9.7%	
純資産合計	27,886	△176	△0.6%	親会社株主に帰属する四半期純利益 470 百万円、 非支配株主持分の減少 194 百万円、 配当金の支払 447 百万円等
自己資本比率	18.9%	△1.2pt		

### 4. キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当期末残高 17,783 百万円

(百万円)

	2018年5月期 2Q末	増減	資金増減の主な内訳
営業活動による CF	+457	+973	増加は税金等調整前四半期純利益 3,053 百万円、 減価償却費 1,737 百万円、のれん償却額 495 百万円等 減少は売上債権の増加 2,449 百万円、 営業債務の減少 1,720 百万円、 法人税等の支払額 1,466 百万円等
投資活動による CF	△7,915	△5,868	減少は固定資産の取得による支出 6,557 百万円、 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 801 百万円、 事業譲受による支出 645 百万円等
財務活動による CF	+4,155	+6,116	増加は長期借入れによる収入 7,150 百万円、 セール・アンド・リースバック 1,593 百万円等 減少は長期借入金の返済 2,735 百万円、 配当金の支払額 1,370 百万円等
フリーCF	△7,457	△4,895	

### 5. 2018年5月期（2017年6月1日～2018年5月31日）連結業績予想

2018年5月期の通期連結業績予想については、人材需要は引き続き旺盛と見られるものの、労働契約法や派遣法など法制面による影響が不透明であることや、パブリックソリューションにおけるコストの期ずれ等を総合的に勘案し、2017年7月14日に公表した通期連結業績予想を据え置きます。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純損益
2018年5月期 業績予想	323,300	5,650	5,600	1,000
2017年5月期 実績	280,395	4,488	4,319	△129
前期比増減率	+15.3%	+25.9%	+29.6%	-

四半期ごとの連結業績およびセグメント別業績データは <https://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。